

3. 社会との連携

知の拠点セミナー

夏期セミナー

共同研究拠点国際シンポジウム

脳研究所・生理学研究所・霊長類研究所合同シンポジウム

見てみようヒトの脳と心

知の拠点セミナー

国立大学共同利用・共同研究拠点協議会
第46回 知の拠点セミナー
「脳とは、認知症とは、そしてこころとは」

日 時：平成27年7月17日(金) 17時30分～

場 所：京都大学東京オフィス(東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟27階)

講演者：高橋 均(新潟大学脳研究所 新潟大学研究・社会連携担当理事)

参加者：71名

「知の拠点セミナー」

国立大学の共同利用・共同研究拠点が一体となって、毎月1回、第3金曜日の午後5時半から7時半、東京・品川で開催される連続セミナーです。学問の最先端のようすを、広く一般の方々にお届けするとともに、その声を直接お聴きするのが目的です。第46回セミナーは、脳研究所が担当でした。

本講演では、脳の発達と加齢、アルツハイマー病とはどのような認知症か、発症を防ぐ対策はあるのか、等をお話いただきました。



第45回 新潟神経学 夏期セミナー



脳と心の基礎科学から臨床まで
最前線の研究者、臨床家に触れて体感しよう!

2015.7.23_木 ▶ 25_土

場所：新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター（6F）セミナーホール

主催：新潟大学脳研究所 新潟脳神経研究会

7.23
thu

見学・体験
実習コース

共同利用・共同研究拠点プログラム

- ①基礎神経科学履修コース：A. フラビン蛋白蛍光イメージング実習(7/21~23)(8名)
(新学術領域「メノ神経回路」との共催)
B. 遺伝子改変動物作製の実際(7/22~23)(4名)
C. 神経細胞の培養と遺伝子導入(7/23のみ)(6名)

- ②脳研レジデント(臨床)体験コース：(7/23のみ)(10~20名)

脳外科、神経内科、病理(Brain Cutting, CPC)、
3T-MRIなど脳研の臨床を一日で体験できるコース

共同利用・共同研究拠点プログラム(旅費支給あり)に応募される方は下記HPをご覧ください。

7.24
fri

オートファジーと
神経疾患：
細胞内小器官ダイナ
ミクスの異常は疾患を
引き起こすか？

- | | | |
|-------------|-----------------------|--------------------|
| 10:00~10:30 | 「脳腫瘍におけるオートファジー誘導」 | 青木 洋 (新潟大・脳研) |
| 10:30~11:20 | 「封入体の形成と分解」 | 若林 孝一 (弘前大・医) |
| 11:20~12:10 | 「ミトコンドリアの動的な形態制御」 | 石原 直忠 (久留米大・分子生命研) |
| 13:30~14:20 | 「ミトコンドリアオートファジー」 | 神吉 智丈 (新潟大・医) |
| 14:20~15:10 | 「オートファジーとパーキンソン病病態」 | 斉木 臣二 (順天堂大・医) |
| 15:30~16:30 | 「オートファジーの分子機構」 | 水島 昇 (東大・医) |
| 16:30~ | ポスター発表 (脳研究所の研究紹介) | |
| 18:10~ | 懇親会 (講師・研究者、臨床家と語ろう!) | |

7.25
sat

神経疾患の
disease
modifying
therapyを
目指して

- | | | |
|-------------|-------------------------|----------------|
| 9:00~ 9:50 | 「PDの新規治療ターゲット-異常タンパク伝播」 | 長谷川隆文 (東北大・医) |
| 9:50~10:40 | 「ALS-分子から病態パスウェイへ」 | 伊東 大介 (慶應大・医) |
| 10:50~11:40 | 「脳梗塞に対する神経・血管保護療法」 | 金澤 雅人 (新潟大・脳研) |
| 11:40~12:30 | 「脳梗塞に対する細胞移植療法」 | 堀江 信貴 (長崎大・医) |

申込み
問合せ

○事前申込みが必要です。氏名、所属、連絡先、1日目の希望コース(希望者のみ)を以下までお知らせください。

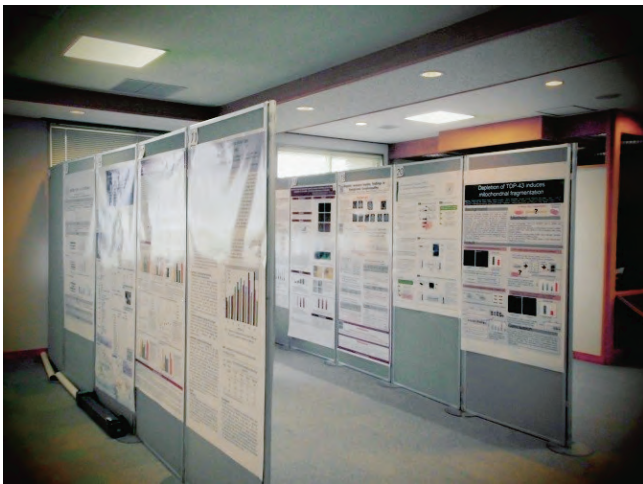
〒951-8585 新潟市中央区旭町通1-757 新潟大学脳研究所 神経学夏期セミナー事務局・佐藤
TEL: 025-227-0606 FAX: 025-227-0814 E-mail: blib@bri.niigata-u.ac.jp URL: <http://www.bri.niigata-u.ac.jp>

受講料

大学生・大学院生
無料

本セミナーは日本脳神経外科学会生涯教育クレジット、日本神経学会認定医更新取得単位の対象です。

夏期セミナー



第6回新潟大学脳研究所共同研究拠点国際シンポジウム(プログラム)
6th BRI Symposium in Niigata (Program)

「意識を必要とする脳機能の神経メカニズム」

“Neural mechanisms of brain functions that require awareness”

25th PM - 27th AM, July, 2015

Center for integrated human brain science (6F)

Brain Research Institute (BRI), Niigata University

25th PM

13:00-13:05 Masatoyo Nishizawa Opening remarks by the director of BRI

Session 1: Cellular/Molecular mechanisms (chaired by Ryota Kanai & Yutaka Komura)

13:05-13:50 Katsuei Shibuki (BRI, Niigata Univ)

Bottom-up approach to visual awareness in mice

13:50-14:35 Takeshi Yagi (Osaka Univ)

Genetic bases for generating the complex neural networks in the brain

14:35-14:45 (Coffee break)

14:45-15:30 Takahiro Furuta (Kyoto Univ)

Introduction of morphological techniques for integrative brain science

15:30-16:15 Haruo Hosoya (ATR)

Understanding representations in visual cortex with hierarchical statistical models of natural images

16:15-16:25 (Coffee break)

Special Lecture 1 (chaired by Toshiyuki Hirabayashi & Shinji Nishimoto)

16:25-17:25 Biyu Jade He (NIH, USA)

Slow cortical potentials in conscious perception and volition

17:30- Reception

Free discussion with speakers

26th AM

Session 2: Basic studies (chaired by Makiko Yamada & Shinji Nishimoto)

9:00-9:45 Ryota Kanai (Univ Sussex/ATR)

Roles of top-down prediction in visual awareness

9:45-10:30 Yutaka Komura (AIST)

Linking metacognitive signals to vision in monkeys and humans

10:30-10:40 (Coffee break)

10:40-11:25 Toshiyuki Hirabayashi (Univ Tokyo/NIRS)

Towards understanding the circuit mechanisms underpinning conscious retrieval

of object memory in macaques

11:25-12:10 Atsushi Iriki (RIKEN)

Neurobiological mechanisms for emergence of the objective-self

during primate brain evolution

12:10-13:10 (Lunch)

26th PM

Session 3: Applied studies (chaired by Takeshi Yagi & Katsuei Shibuki)

13:10-13:55 Makiko Yamada (NIRS)

Molecular mechanism of conscious self-perception

13:55-14:40 Jun Miyata (Kyoto Univ)

Psychosis as a disorder of consciousness integration

14:40-14:50 (Coffee break)

Special Lecture 2 & 3 (chaired by Takahiro Furuta & Masafumi Ojzumi)

14:50-15:50 Naotsugu Tsuchiya (Monash Univ, Australia)

The no-report paradigm: an avenue for distilling the neural correlates of phenomenal consciousness

15:50-16:50 Jakob Hohwy (Monash Univ, Australia)

Better believe the free energy principle

17:00-18:30 Poster Session

27th AM

Session 4: Analytical studies (chaired by Ryota Kanai & Katsuei Shibuki)

9:00-9:45 Shinji Nishimoto (CINet)

Modeling and decoding of human perceptual experiences

9:45-10:30 Masafumi Oizumi (RIKEN)

The integrated information theory of consciousness - theory and practice

10:30-10:40 (Coffee break)

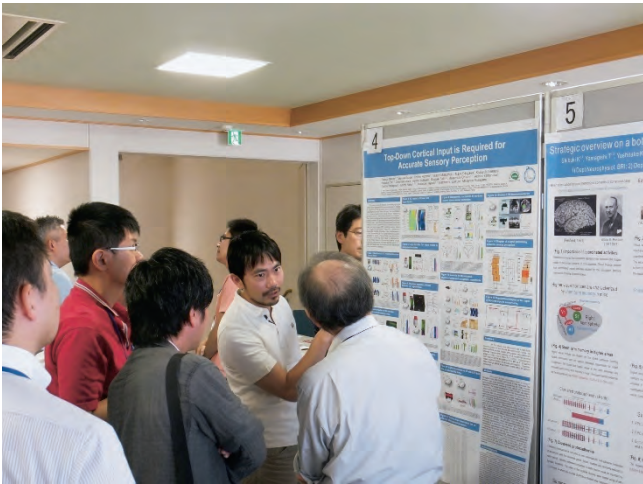
Special lecture 4 (chaired by Haruo Hosoya & Jun Mivata)

10:40-11:40 Andrew Haun (Univ Wisconsin, USA)

Contents of consciousness and the structure of integrated information

11:40-11:45 Katsuei Shibuki Closing remarks by the organizer

国際シンポジウム



第5回 新潟脳研—生理研合同シンポジウム

平成28年3月1日(火)～2日(水)

岡崎コンファレンスセンター 大会議室・中会議室

プログラム

3月1日(火)

13:00～ 受付 ポスター掲示

14:00 開会の挨拶 井本敬二 生理学研究所長

14:05～15:05 セッション1 座長：崎村健司 (脳研)

1. 江藤 圭 (生理研・生体恒常機能発達機構)
慢性疼痛における一次体性感覚野神経回路の変容機構
2. 内田仁司 (脳研・細胞神経生物学)
神経障害性疼痛におけるRNA編集異常

15:05～15:20 写真撮影・コーヒーブレーク

15:20～16:20 セッション2 座長：南部 篤 (生理研)

3. 高田昌彦 (霊長研・統合脳システム)
ウイルスベクターを用いた霊長類脳への外来遺伝子導入法と
その応用
4. 高桑徳宏 (生理研・認知行動発達機構)
Visual input pathways for reward prediction signals
in dopamine neurons of blindsight monkeys

16:20～17:00 特別講演 座長：池中一裕 (生理研)

西澤正豊 (脳研・神経内科学)
小脳性運動失調症の評価と治療

17:00～18:00 ポスターセッション (中会議室)

18:00～20:00 懇親会 (中会議室)

3月2日(火)

8:30～ 受付

8:45～10:15 セッション3 座長：小松英彦 (生理研)

5. 菱田竜一 (脳研・システム脳生理学)
マウス頭頂連合野から一次視覚野への抑制投射とその機能
6. 大塚 岳 (生理研・大脳神経回路論)
皮質回路におけるオシレーション活動
7. 笹岡俊邦 (脳研・動物資源開発研究)
ドーパミン受容体遺伝子操作マウスを用いた運動制御の仕組みの解明

10:15～10:30 コーヒーブレーク

10:30～12:00 セッション4 座長：柿田明美 (脳研)

8. 吉村 武 (生理研・分子神経生理)
髄鞘の糖鎖解析から見えてきた硫酸化糖鎖の役割
9. 福多真史 (脳研・脳神経外科学)
脳神経外科手術における術中モニタリング
運動を模倣する創薬
10. 富田拓郎 (生理研・心循環シグナル)

12:00 開会の挨拶 那波宏之 新潟大学脳研究所長

ポスター発表演題 (会場岡崎カンファレンスセンター 1階中会議室)

- P1. 木田哲夫 (生理研・感覚運動調節)
注意制御に関わる脳機能ネットワーク特性の時空周波数動態
- P2. 菱田竜一 (脳研・システム脳生理学)
マウス頭頂連合野から一次視覚野への抑制投射とその機能
- P3. 杉村岳俊 (生理研・視覚情報処理)
片眼遮蔽により視覚野の興奮性シナプス伝達に誘発される可塑性変化
- P4. 笹岡俊邦 (脳研・動物資源開発研究)
ドーパミン受容体遺伝子操作マウスを用いた運動制御の仕組みの解明
- P5 陳 以珊 (生理研・神経機能素子)
Activation mechanisms of an orphan metabotropic receptor Prprt3
- P6. 大西 毅 (脳研・システム脳生理学)
マウス後肢血流遮断によって生じるNOは両側性脊髄応答増強を誘発する
- P7. 秋元 望 (生理研・神経シグナル)
自律神経系を介した内臓感覚情報の中枢性制御機構
- P8. 北浦弘樹 (脳研・病理学)
ヒト脳スライス標本を用いたてんかん病巣のイメージング解析
- P9. 横井 功 (生理研・感覚認知情報)
実物素材刺激によって引き起こされる素材カテゴリーに依存したサルの行動反応
- P10. 大石高生 (霊長研・統合脳システム分野)
「早老症」自然発症ニホンザルについて
- P11. 深田優子 (生理研・生体膜)
PSD-95 パルミトイル化サイクルを担う酵素群の発見と機能解析
- P12. 成原 格 (脳研・分子神経生物学)
サイトカインによる統合失調症モデルラットの発声異常
- P13. 野崎洋明 (脳研・神経内科学)
Distinct molecular mechanisms of HTRAI mutants in manifesting heterozygotes with CARASIL
- P14. 國澤和生 (生理研・分子神経生理)
Analysis of neuronal responses against disruption of paranodal junction

- P15. 鈴木清隆 (脳研・統合脳機能研究センター)
7.0 Tesla MRI reveals electrostatic environment of the glia limitans

- P16. 小山総市朗 (生理研・心理生理学)
第二次体性感覚野に対する経頭蓋直流電気刺激が疼痛知覚に与える影響

- P17. 原 範和 (脳研・遺伝子機能解析学)
アルツハイマー病患者由来末梢血由来 RNA-seq・網羅的発現解析

- P18. 菅原 翔 (生理研・心理生理学)
超高磁場 fMRI に最適化した multiband GE-EPI 法の検証

- P19. 井上謙一 (霊長研・統合脳システム分野)
霊長類における光遺伝学を利用した神経回路の選択的操作

- P20. 佐野裕美 (生理研・生体システム)
Neuronal and behavioral modulations by pathway-selective optogenetic stimulation of the primate oculomotor system

- P21. Sun Wuping (生理研・細胞生理)
ジストニアモデルマウスの筋電図解析

- P22. 中本千尋 (脳研・細胞神経生物学)
Lack of TRPV2 impaired BAT thermogenesis in mice

- P23. 岡本土毅 (生理研・生殖・内分泌系発達機構)
 δ 型グルタミン酸受容体 GluD1-KO マウスの情動異常とその生化学的解析

- P24. 佐藤達也 (生理研・生殖・内分泌系発達機構)
AMP-activated Protein Kinase in CRH Neurons in the PVH Controls Food Selection Behavior

- P25. 中尾聡宏 (脳研・動物資源開発研究)
社会的ストレスによる食餌選択行動の変化に及ぼす室傍核 CRH ニューロンの AMPK による調節作用

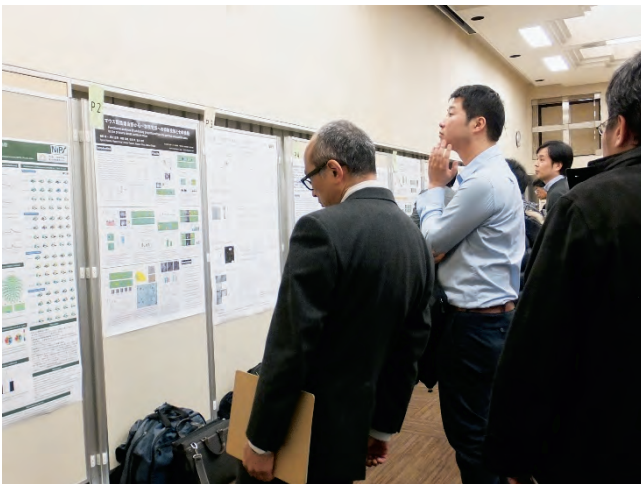
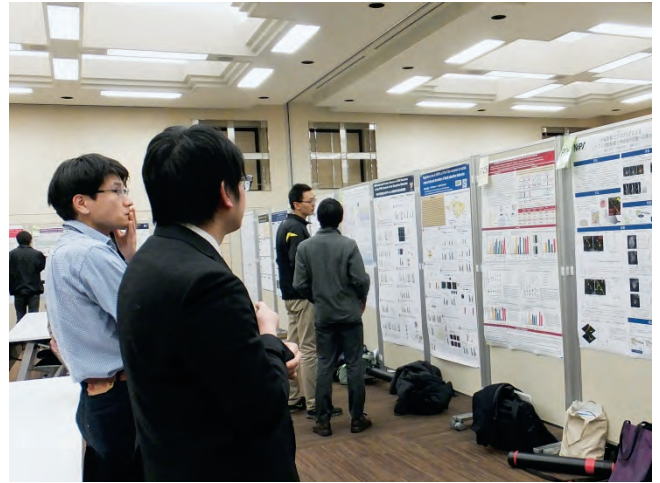
- P26. 穂吉亮平 (生理研・生体恒常機能発達機構)
環状オリゴ糖による生体膜脂質環境の変化が精子の受精能を向上させる

- P27. 永岡唯宏 (生理研・脳形態解析)
大脳皮質ミクログリアによるシナプス活動制御と神経局所回路への関与

- P28. 横関明男 (脳研・システム脳病態学)
Role of planar cell polarity protein Vangl2 in synapse formation

- P29. 二宮太平 (霊長研・統合脳システム分野)
TDP-43 関連 ALS の脊髄運動神経における Cajal 小体容積の解析
多系統萎縮症関連遺伝子変異ザルの網羅的病態解析

合同シンポジウム



主催 ● NPO 法人 脳の世紀推進会議 / 新潟大学脳研究所

後援 ● 新潟県教育委員会

見てみようヒトの脳と心

平成28年 3月29日 火 14時～17時

参加費 無料

会場 新潟大学脳研究所

対象 高校生、大学生

申込方法

①氏名 ②住所・電話番号 ③学校名・学年
④公開コース1)～7)のうち第1&第2希望を明記してハガキまたはeメールで下記まで(先着順)

申込先

〒951-8585 新潟市中央区旭町通り1-757
新潟大学脳研究所 担当：図書室・佐藤
E-mail : blib@bri.niigata-u.ac.jp
TEL : 025-227-0606 FAX : 025-227-0814
URL : <http://www.bri.niigata-u.ac.jp>

脳の病気や障害そして心を知る重要性について、世界的な共通の認識のもとアメリカを中心とする脳神経科学者たちがDana脳科学推進同盟(DABI)を結成しました。DABIは、ユネスコと国際脳研究機構の後援を受け、「世界脳週間」を設定して、世界的に脳科学の重要性を広く社会に訴える啓蒙活動を企画することになりました。日本でも、脳の最先端研究を実施している14以上の研究機関が、その趣旨に沿って、日本の科学研究の将来を担うべき学生を対象に、わかりやすく最先端の脳研究を紹介し、すこしでも脳と心の科学に興味を持ってもらおうと、研究室／実験の公開と講演を予定しています。

当新潟大学脳研究所においてもこの趣旨に沿って、3月29日(火)に「見てみようヒトの脳と心」という題の研究所公開と講演を企画しました。この趣旨をご理解いただいて、学生の皆さんに積極的に下記の行事に参加していただければ幸いです。

代表：新潟大学脳研究所長 那波宏之

I. 脳研究所長挨拶 (検討会室)

14:00～14:10

II. 脳研究所公開／脳研究の実際 (会場：各分野の研究室)

14:10～15:40

- | | |
|---------------------------------|-----|
| 1) 脳を観察する(病理学分野) | 6名 |
| 2) 活動する脳を見る(システム脳生理学分野) | 10名 |
| 3) 生きた神経細胞を育ててみる(分子神経生物学分野) | 10名 |
| 4) 記憶や学習の分子メカニズム(細胞神経生物学分野) | 10名 |
| 5) 脳の働きを明らかにするモデル動物(動物資源開発研究分野) | 10名 |
| 6) 遺伝子を調べて未来を予測する(遺伝子機能解析学分野) | 10名 |
| 7) ヒトの脳と心を探る(脳機能解析学分野) | 10名 |

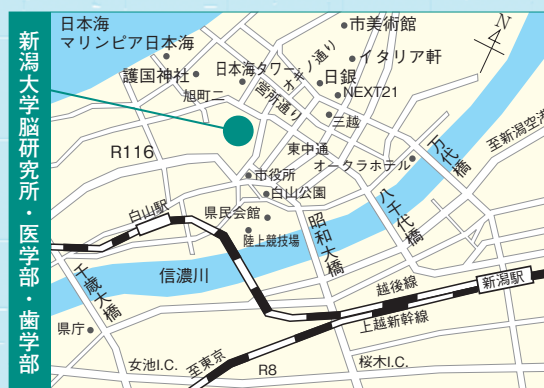
計66名

III. ヒトの脳の不思議(統合脳機能研究センター棟6Fセミナーホール)

15:50～17:00

- | | |
|--------------|------|
| 1) ヒトの脳発達と知能 | 那波宏之 |
| 2) 脳を治す | 藤井幸彦 |

計100名



見てみようヒトの脳と心

